

学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式（小学校用）

都道府県名	三重県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	桑名市立城南小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	障害児学級	計	教員数
学級数	2	2	3	2	2	2	2	15	22
児童数	68	66	85	79	72	78	6	454	

研究の概要

1. 研究主題

進んで学び、支え合う子どもの育成をめざして。

～基礎学力の充実を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

実施学年・・・全学年

教科・・・算数（今後、他教科へもひろげていく）

理由・・・児童の理解状況に差がでやすいため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 進んで学び、支え合う子どもの育成をめざして。 ～基礎学力の充実を通して～</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>「知識や技能を身につけること」と、わかることで子どもたちが意欲的に学習を進めるのではないか？その基礎の力をもとにして、「学ぶことの楽しさ」を実感できるようになると、学習したことも定着し、活用できるようになるのではないか。（1年目）</p> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 児童自身が意欲的に学ぶために、一人ひとりが活躍できる指導方法、教材教具の工夫をおこなう。 5限目の前に「チャレンジタイム」という帯の時間を設定し、年間を通して基礎をつくる時間とする。 個々の児童に対応できるように工夫する。 少人数集団について、学習目的にあった編成を検証する。 教師が話し合う時間をたくさん持ち、学年ごとのつきたい力はつきりさせて、指導法についても検証する。 児童・教師が授業を振り返り評価する。児童は自分の成長した部分を、教師は指導法の改善に役立てる。 先進校視察をする。講師の招へい。
--------	---

平成 16 年度	<p style="text-align: center;">テーマ</p> <p style="text-align: center;">進んで学び、支え合う子どもの育成をめざして。 ～基礎学力の充実を通して～</p> <p>研究の見通し 基礎の力をもとにして、「学ぶことの楽しさ」を実感できるようになると、学習したことも定着し、活用できるようになるのではないかと。教師も児童も自分をみつめなおすことで、学習に対する取り組み方がかえることができるのではないかと。(2年目)</p> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童自身が意欲的に学ぶために、一人ひとりが活躍できる指導方法、教材教具の工夫をおこなう。 つまずきに対する効果的な指導。 より一層の個に応じた指導を進める。 児童の実態把握。 学習速度の差・学習到達度の差・興味関心の差・生活経験の差 学習スタイルの差に対する効果的な指導の研究。 教師が話し合う時間をたくさん持つことで、教師間の温度差をなくしていく。 児童も話し合い支え合うような授業の推進 2 児童・教師が授業を振り返り評価する。児童は自分の成長した部分を、教師は指導法の改善に役立てる。 授業を、10分ごとの目、1時間ごとの目、1單元ごとの目、学年を超えた目などで評価していくことで、指導法の見直しをしていく。 児童は、評価することで自己教育力を高めていく。 3 先進校視察をする。講師の招へい。
----------------	--

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

* 可能な限り客観的なデータも示しながら、自校の研究のねらいや研究内容に即して、研究の成果を記述すること。

評価規準の得点化指針を作り、単元終了時だけでの評価のみならず、1時間ごとの授業の評価をおこない、次回の授業の指導の見直しをおこなった。

少人数授業を行うときの話し合いを大切にしたい。この話し合いを大切にすることで、授業の進度の差、内容の差、をなくし、児童や保護者が安心できる、指導ができた。

業者テスト(CRT)や自校でのチェックテストをおこない、一人ひとりの児童のつまずいている箇所を把握し、指導に役立てた。

2. 今後の課題

* 研究の今後の課題を明らかにするとともに、次年度（最終年度）の研究の方向性が見えるよう記述すること。

教師の経験年数や能力に左右されないように、研修の成果をきちんとシステム化していく必要がある。

個に応じた指導をより一層進める。（形態・内容・時間など）

学習環境を整える。

学力等把握のための学校としての取組

* 児童の学習状況の変容を捉えるために、定期的に行っている各種調査などについて、調査の目的、実施内容、時期等を記すこと。

業者テスト (CRT)	目的 内容 実施時期	児童の習熟状況の把握 算数・国語 各年度終わり（本年度は1月26日に本年度分を実施済み）
----------------	------------------	--

漢字	目的 内容 実施時期	漢字の習熟状況・つまずきの箇所。 該当学年前（6年なら1～5年の漢字）の学期ごとのテストを実施。 7月・12月・3月に各学期分の漢字を実施。（6年なら1～5年の漢字の問題）
----	------------------	--

算数	目的 内容 実施時期	算数科での習熟状況・つまずきの箇所。 各学年の算数テストをする。 3月に各学期分の算数の問題を実施。（6年なら1～5年の算数の問題）
----	------------------	--

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

* 研究会、説明会等の開催実績及び開催予定（日時、場所、対象、会の目的、参加人数等）

日時	平成15年10月22日
場所	城南小学校
対象	陽和中学校区内 小中学校教職員
目的	中学校区内の交流
参加人数	本校教職員以外で15人

* 研究成果普及のためのHP作成、パンフレット作成等の実績（学校としての創意工夫を含む）及び今後の予定

平成16年度学校HP作成。（予定）
公開授業、および紀要・指導案集の作成

* フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績予定

2月24日（火）桑名市研修担当者研修会での実践発表（予定）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無